

だいせつざんのすがお

大雪山の素顔

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人たちをリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

動物たちの言葉

小学生のころ、「ドリトル先生」の本が大好きでした。さまざまな生き物とコミュニケーションができるお医者さんの話です。哺乳（ほにゅう）類だけではなく、野鳥、カメ、貝の言葉まで習得できてしまうのです。動物が伝えようとしていることを知る秘けつを、先生が助手の少年に話す場面があります。そのフレーズを胸に、近所の野良ネコやスズメを結構まじめに観察していたという思い出があります。

動物との会話には挫折しましたが、以来自然を見るのが好きになり、この仕事をしています。今でも森や山で野生動物と出合った時は、相手の気持ちを想像します。驚き、怖さ、ちょっとだけ興味、子供の心配、無視、見なかったことにする、など。直接会話はできなくても、「生きる」ことから生まれる感情は「人間とあまり変わらないかなあ…」と考えるようになりました。

北海道に住んでいると、キタキツネやエゾシカ、エゾリスなどの野生動物に出会うのは難しいことではありません。山や森を歩く時はもとより、休日にドライブをする時、あるいは

は郊外に家があればごく身近な場所でも見かけます。町内では、カケスやアカゲラなど野鳥が庭に来ることも多いと思います。住んでいると見慣れた日常の一部ですが、一度失われれば、大金を出しても「買い戻す」ことができない風景です。

都会から何時間もかけて自然の中へ遊びに行くことは、それはそれでわくわくしておもしろいのです。身近にないものだからこそ興味が湧き、その美しさへの感動が増す場合もあるでしょう。逆に野生と人間社会との距離が近い場所では、ときにそこから生じる対立が眼前に突きつけられます。

それでも自然に寄り添って暮らし、途方もない寒さや雪、短い夏の豊かさをもとに体験する人のほうが、動物たちの「言葉ではない言葉」には近づけるような気がしています。それは人間と他の生物がこれからも同じ世界で共存するため、大切なことだと思うのです。

イラストのコメント

裏山が動物たちの世界に直結する東川町内には、自然を案内するプロのガイドさんたちも生息…ではなくて、仕事をしています。「冬は寒いから苦手だし、怖い」という方、彼らと一緒にぜひ森を歩いてみてください。冬眠しないものたちの生き生きとした気配を感じに…。



旭岳ビジターセンター 田上千尋（イラストも）

俳句

秋深し街より里の鮮やかさ	三島智
どん底はまだ先にあり青蜜柑	秋山深雪
庭の中咲くだけ咲かせ秋桜	長谷川きみゑ
夢でもと思えど会えず秋深む	小林露葉
屋敷神七転八起き秋のこゑ	青野公花
梵鐘のたなびく余韻秋深し	杉山ひろのり
黒揚羽影脱ぎ捨てて去りにけり	徳光吐苦
生涯の地図なき道や秋深し	杉山りつ
ありし日の夫を語りて秋深し	山口佐知子
秋深しコンテナの汽車南へと	高瀬潤
古屋根をカラスが滑る野分かな	石澤清宏
静寂の轍に残る落穂かな	澤田久美子
秋風よ恋路はしらぬ顔でゆけ	松山蓉子

